



武庫の宝

令和7年 4月号②



三田市立武庫小学校長 大向 勲

≪「幸せな学校」の実現に向けて≫

新学期が始まってから2週間が経ちました。昨年に引き続き、毎朝校門で子どもたちを出迎える時間は、私にとってとても大切な時間です。

1年生がまだ入学していない、新しいクラスがわかった翌日の4月9日の登校は記念すべき今年度初日の登校と思って、タブレットを設置して動画を撮影しました。そして昨年にも紹介したあいさつを数えるカウンターを持って子どもたちを出迎えたのです。

ところが…途中からもう数えるどころではなくなりました(笑)。子どもたちとの「ふたことあいさつ」や、何気ない会話、じゃんけん(これを楽しみにしている子もいるのです)で大忙し!そもそも数えることは目的ではありません。「先生は、本気であいさつをするぞ」と子どもたちをその気にさせるちょっとした手段でしかありませんでしたから。確か昨年の5月の全校朝会でグラフにして見せたのですが、もうそれも必要なさそうです。とにかく、子どもたちとの広い意味での「ふたことあいさつ」が私にとって一日の元気をチャージできる時間なのです。

そして、翌週の14日(月)からは入学式を終えた1年生も一緒に登校。全員そろったということで、節目節目に登場する「おーむくん」も一緒に出迎えました。

そこで、何度も目にした素敵な瞬間が、先頭の高学年さんが振り返る瞬間です。先頭を歩く責任を感じてくれているのでしょうか。「後ろはついてきているか」「歩みがまだまだゆっくりの1年生は大丈夫か」きっとそんなふうに気かけながら、振り返る高学年さんを見ると、私はあいさつに「ありがとう」を付け加えずにはられません。

「ヒト・モノ・コトの価値を見つけ伝える」「ほめる＝価値発見」

子どもたちから「校長先生、価値発見!」と教えてくれることが度々あります。昨年の積み重ねを確かに感じるこの4月。「幸せな学校」の実現に向けて、価値発見をますます広めていきたいと思っています。



文字ばかりで申し訳ありませんが年度初めにあたり、大切なことを書かせていただいております。ご一読ください。

☆いじめをしない させない 見逃さない！

○ 「いじめ」って？～今一度確認いただきたい、いじめの定義～

いじめとは「一定の人間関係のあるものから、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、肉体的・精神的な苦痛を感じているもの」となっています。この定義から考えると、与えた方の意思とは関係なしに、与えられた方が、苦痛と感じた時点で「いじめ」であると認定されます。

学校現場でよくあるのが、与えた方の「軽いノリだった」「冗談のつもりだった」という言い分です。確かにその言い分に偽りはないと思うのですが、先ほどの定義によると、与えた方の意思に関係なく、その行為によって相手が苦痛を伴えば、それは「いじめ」だとなります。

これは、学校という場において、いつでもどこでも起こりうることだと考えています。つまり、「いじめを0」にするのではなく、「いじめの見逃しを0」にするという考えのもと、私たちは日々教育活動を行っています。私たち武庫小学校の教職員は、こういったいじめの定義を正しく理解し、共通理解を図りながら、「いじめ見逃し0」に対して組織的に取り組んでいます。



○ 具体的な取り組み

保護者、地域住民のみなさんが、「学校いじめ防止基本方針」の内容を理解しやすいようにホームページにて公表したり、学校だよりなどを通じて日々の様子をお伝えしたりすることを心がけています。また、学校には「学校いじめ対応チーム」を組織しています。チームには、管理職、生徒指導担当教員、養護教諭やスクールカウンセラーも所属しています。担任だけでなく、「多くの先生があなたのことを見守っているんだよ」という安心感を児童に与えるということも大切にしています。

対応については「複数」対応を原則としており、丁寧に事実確認を行うようにしています。そういった活動が、「いじめの早期発見」「早期対応や抑止」につながっていくと考えています。もし、保護者のみなさんが、少しでもお子さんに異変を感じたり、不安に思ったりすることがございましたら、学校の方に連絡いただければと思います。教職員が一丸となり、子どもたちのために全力で対応にあたっていきたいと考えております。いじめ問題は、「いじめは絶対に許さない」「いじめは決して見逃さない」と私たち大人が強く決意し、社会すべてで取り組むべき問題です。保護者・地域の皆様もどうかお力添えよろしく願いいたします。

☆ 「武庫小学校の特別支援教育について」

- ① 武庫小学校には、特別支援学級(チャレンジルーム)通級指導(ステップアップルーム)で学習している児童がいます。また、通常の教室で指導補助員の先生の支援を受けながら学習している児童がいます。
- ② 学校全体が特別支援教育を大切にしており、支援の必要な児童には、担任だけでなく他の教師も支援ができる体制をとっています。
- ③ 学習する形態が異なっても、自分にあったペースで一生懸命に頑張っている子どものことを理解し、お互いを認め合っていく学習集団をつくっていくことが大切です。すべての子どもたち一人ひとりが大切にされ、それぞれの個性や違いを認め合い、ともに仲良く助け合っていくことをめざしています。

○特別支援学級における指導

それぞれの児童の個性や能力を伸ばし、将来の自立において特別支援学級(チャレンジルーム)での指導及び交流学級での指導を児童の実態に応じて行っています。

- ① 特別支援学級在籍の子どもではありますが、交流学級の児童にとっては、自分たちのクラスの一員としてお互いに認め合い助け合う指導を行っていきます。
- ② 全クラスで、教材を使って、支援を必要とする人についての理解を深める学習を行っています。
- ③ 担任がチャレンジルームの学習の様子や作品を見に行くなどして、特別支援学級の子どもを理解する機会を取り、クラスの子どもたちに伝えるようにしています。

○通級教室における指導

それぞれの児童の困り感に寄り添いながら、週に1時間、課題の解決に向けた授業を通級教室(ステップアップルーム)にて個別に学習しています。

- ① 物事のわかり方や、見え方、聞こえ方について、また、人とのかかわり方について、うまくいかずに困っているときに、上手に対応できるように学習しています。
- ② 通級教室の様子、日常の学級内での様子などを担任と連携しながら、学んだことが日常の生活で生かせるように取り組んでいます。
- ③ 必要に応じて家庭と連携を図ります。また、困りごとがある場合の相談にも対応しています。

気象災害への学校の対応については、これまでも保護者、地域の皆様のご理解

ご協力をいただいております。ご存じの方も多いかと思いますが、

昨年は宮崎市で、つい先日10日には奈良市で屋外での活動中における落雷事故が発生しました。台風接近等に伴う暴風雨や大雪などに比べ、落雷は突然、予兆

もなく起こることも多く、子どもたちの安全、安心を確保するために、さらにその危険性とそれに対応する備えが必要であると認識しております。屋外での体育活動をはじめとする教育活動や登下校時での対応等、様々なケースが想定されます。引き続きご理解ご協力のほどどうかよろしくお願いいたします。



※令和7年度武庫小学校職員紹介につきましては、紙面にて配布しております。そちらをご覧ください。